



### 「ここにも持続可能を」

理事 曾田佳代子

京都祇園祭を二年連続で見学しました。コロナ禍で、2022年は規模を縮小しての実施、通常開催（2023）は4年振りです。「動く美術館」とも言われる豪華絢爛の23基の山鉦が京都市内を巡行し、交差点で行う「辻回し」が一番の見どころです。見学場所は有難いことに涼しいホテルの一室で最大の交差点の四方が見渡せるスポットでした。コンコンチキチキと鐘を鳴らしながら鉦の列が近づいて作法通りのやり方で、90度方向転換します。小さい山は担いだまま廻しますが、最大級の鉦は、重さ12tもあり、鉦のてっぺんは近くのビルの6階部分まであり、40～50人で引いて辻回しです。沿道の観客も建物内の観客も、固唾を呑んで見守ります。青竹を数十枚敷いて、水で湿らせ、何十本もの綱を大勢の人が引いて少しずつ回します。しかし、山鉦はびくとも動きません。竹を敷きなおしたり、引っ張る方向を変えたりと、炎天下で何度もトライしている様子に沿道の人たちも気が気ではありません。何回もやり直し20分後に少しずつ動き出した時には、思わず全員が拍手でした。室内で見ていた京都市内の情報通の人は、間が空いたからノウハウが途切れたよ、毎年実施して伝えていかないと、細かいことは伝わらないのよと。



そして1年後の今年7月。同じ辻に一番高い山鉦が近づいてきます。観客に昨年と同じ顔触れもいて、今年はどうも辻回しができるかなと、みんな真剣そのものです。同じ作法で竹を敷き水を播き、掛け声をかけながら綱をじわじわと引っ張ると、ゆっくりゆっくりと鉦が方向を変え始め、無事に方向転換ができると、思わずみんな拍手です。平安時代から続いてきた恒例の伝統行事祇園祭り、まさか辻で回らない事態が起きるとは誰も想像しなかったでしょう。中止期間があったことで参加する人の状況も変わっただろうし、引く技術の継承がうまくいかなかったのかもしれない。技術は日進月歩で進んでいきますが、伝統文化のように継承していかないと途絶えることも有ることを目の当たりにしました。日本三大祭の一つとしてユネスコ無形文化遺産に登録されている祇園祭り。現在、SDGsとして様々な視点で持続可能な世界を標榜していますが、文化の持続も本気で取り組む必要のあることを強く感じました。

疫病を鎮めることに起源を持つ祇園祭り名物「粽」を持ち帰り、コロナ終焉を祈るとともに、伝統行事等の継承が出来る社会であって欲しいと願った今夏でした。

### 「SDGs パスポート」発表会

2023.8.2 (水) 岡山コンベンションセンターホール

栗坂祐子 服部誠 森敦 曾田佳代子

「おかやま SDGs フェア 2023」への参加お声掛けを藤木副会長より頂いて楽しみにしておりました。コロナで、教育課程外のボランティア活動が制限され学校の取り組みの発表の機会もなく残念でしたが、3年ぶりに発表の機会が得られ、岡山コンベンションセンターで、初の県下の企業や団体が集うフェアに学校が参加出来て、有意義な会となりました。



岡山市立御南中学校、岡山市立操南中学校のSDGsパスポートを用いての活動は、それぞれ地域の実態を良く把握し、関係者との連携を密にはかりながらとても計画的に実施されており、プレゼンも素晴らしいものでした。両校の校長先生、担当の先生方もわが校の



生徒ながらと感心しておられました。

SDGs17の目標から、自分たちの取り組む目標のゴールを定め、地域に必要なことを、実践していく姿は、とても頼もしいものでした。それぞれが問題意識も持っているのでこれからの活動が更に深まるものと思います。



発表後の二校の生徒さんたちのセッションでは、お互いの取り組みの良いところを自分の学校に生かしていこうとする発言や姿勢が多く感じられ、ギャラリーからの拍手も大きく、「天晴れ！」という声も聞かれました。

岡山市教育委員会から島田教育次長と指導課より森阪副主査にもおいで下さり、中学生の自主的なSDGs活動の取り組みを称賛して下さるとともに、これからの方向性のアドバイスをしてくださいました。

生徒たちにとって、岡山県内の企業や自治体、マスコミ関係など幅広い機関が共同して開催するフェアに参加させていただき、企業が目指している所や取り組みを直接に自分の目で見たことは、大いに刺激になったようで、感想文にもその記述が多く見られました。フェアの一貫としてステージに上がり、自分たちの活動を発表できた事は、持続可能な社会を担う一員として、広い視野で考え実践していこうとする意欲をさらに掻き立てられる好機会になったことと実感しております。



## 第25回 「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの絵画展」開催！

副会長 田畑 美和子

例年お正月明けに数日間実施していましたが、今年は秋の連休を使って行いました。岡山市内の小・中学校に向け、夏休み期間中に会った宝物（自然や風景、文化遺産、季節の行事など）からの絵画作品を募りました。10月14日に美術教育を専門にされる3名の審査員による選考会を行い、応募292作品の中から101作品が入賞。岡山県生涯学習センター（岡山市北区伊島町3-1-1）一階で、2023年11月3日（金・祝）～5日（日）の3日間入賞作品を公開展示、5日12時から表彰式を行いました。

ご家族の方、あるいはセンターをたまたま訪れた方も「すごいね～。いいね～」と、見入る作品が多数並びまし



た。今年の暑い暑い夏に負けないで、写生等で作品づくりに励む姿が目につく作品でした。自分の描いた対象に今後であう度、きっと新しい発見があることでしょう。応募の生徒さんたち、ありがとうございました。



日本ユネスコ協会連盟会長賞  
久井杏夏さん (小3) の「備中かぐら」



岡山ユネスコ協会会長賞  
松本和佳奈さん (中1) の「大事にしていきたいもの」



奨励賞 (旧 三宅正勝賞)  
耕田 和さん (小6) の「楽しい岡山城」



優秀賞に 18 作品、優良賞に 32 作品、佳作に 48 作品 でした。

## 留学生だより Part3

理事 川口芳子



留学生だより Part3は、専門学校岡山情報ビジネス学院の国際システム学科、韓国の学生の「韓国と日本の休日とお祝い」についてです。韓国の休日をご存知でしょうか？日本では祝日として、まとまっていますが、韓国の休日は、국경일 (国慶日) と공휴일 (共休日) の2つに分かれています。一般的には国慶日も共休日になっていますが、唯一「制憲節」だけは違います。「制憲節」は日本の憲法記念日と同じです。このように韓国と日本の休日は少し異なります。

他にも休日の違いがあります。例えば、クリスマスです。韓国ではクリスマスが休日ですが、日本では休日ではありません。

なぜなら、日本は法律に「国や宗教はいかなる宗教にも特権を与えない。」と記載されているから公休日にはなりません。韓国は日本と同じく仏教の国でしたが、アメリカの軍政の影響により1945年10月から公休日になりました。

また、韓国にはハングルの日があります。ハングルの日は10月9日です。ハングルの日は、훈민정음（ふんみんじょんうむ）の公布を記念して、ハングルの独創性と科学性を広く知らせ、ハングル愛情識を高めるための記念日です。훈민정음（訓民正音）とは民を教える正しい音という意味でハングルの旧名とも言えます。



私は日本語の勉強を始めてから、塾で日本の休日について教えてもらいました。日本の休日の中で一番驚いたことは、日本ではクリスマスが休日ではないということでした。なぜなら、約18年間当たり前のように休んでいた休日が日本では休みではなかったからです。休日ではありませんが、韓国と日本の違いは他にもあります。例えば、日本には、母の日と父の日があります。韓国では、この二つをまとめて어버이날（親の日）と言

います。어버이날（親の日）は5月8日です。어버이날（オボイナル）は元々어머니날（母の日）でした。なぜ

父の日ではなく母の日だけ作られたのでしょうか。어머니날（母の日）が作られた当時は、（1955年）戦争で

子どもや夫を亡くし、一人暮らしをする女性がたくさんできました。そのため、子供たちを育てて食べさせる仕事を女性たちが引き受けなければならず、母の責任を果たすために作られたのです。1973年に父の日も含めて親の日に変わりました。今は日本と同じく、親に感謝の気持ちを伝える記念日としてカーネーションや手紙を渡します。



#### <編集後記>

今年も残すところ1か月余りとなりました。みなさま、いかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルス感染症も5類感染症に移行となり、クリスマスやお正月もコロナ前の賑わいが戻ってきています。今回でニュースレターは、第64号の発行となりました。会員の皆様方には、ユネスコの活動について理解していただき、今後のご協力をお願いいたします。これからもニュースレターを通して、会員の皆様からのご意見、ご感想をどしどし取り入れていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。連絡はメールでもかまいません。

理事 川口 芳子

